

身近な地域で命を守る防災の取り組み

～松本市島内地区の実践に学ぶ～

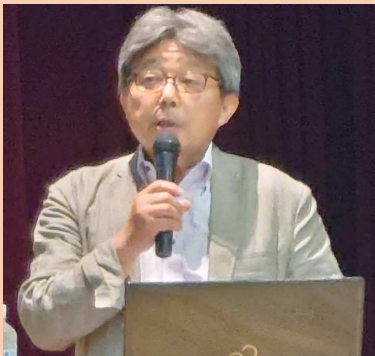
能登半島地震から改めて防災・危機管理の備えが必要なることを認識し、地域コミュニティでの安否確認や災害時の支え合いをどう進めていけばいいのか、松本市島高松町会の事例から学びました。(受講者数 36名)

講義 「身近な地域で命を守る防災の 取り組みとは」

松本大学名誉教授

(松本大学地域防災科学研究所前所長)

木村 晴壽 氏



事例発表 「隣組単位での防災・安否確認」

松本市島内地区島高松町会長

高山 拓郎 氏



講座の全体風景



D I G の演習

〈受講者アンケートから〉

- ・災害時は公助に期待できないことを理解した。隣組レベルでの支え合いの必要性を感じた。(社協)
- ・命を守るために何をしなければいけないのか理解できました。(学校)
- ・D I Gにより地図の見方がよくわかった。ゲーム感覚で楽しめた。(一般)
- ・町会活動の中心に「防災」にすえたことで、「福祉の充実」や「つながりの強化」に繋がったことがわかった。(学校)
- ・特にご近所とのつながりをどのように繋げていくかが課題。(公民館)
- ・なかなか自分事と感じていただくにはハードルがあります。(社協)

